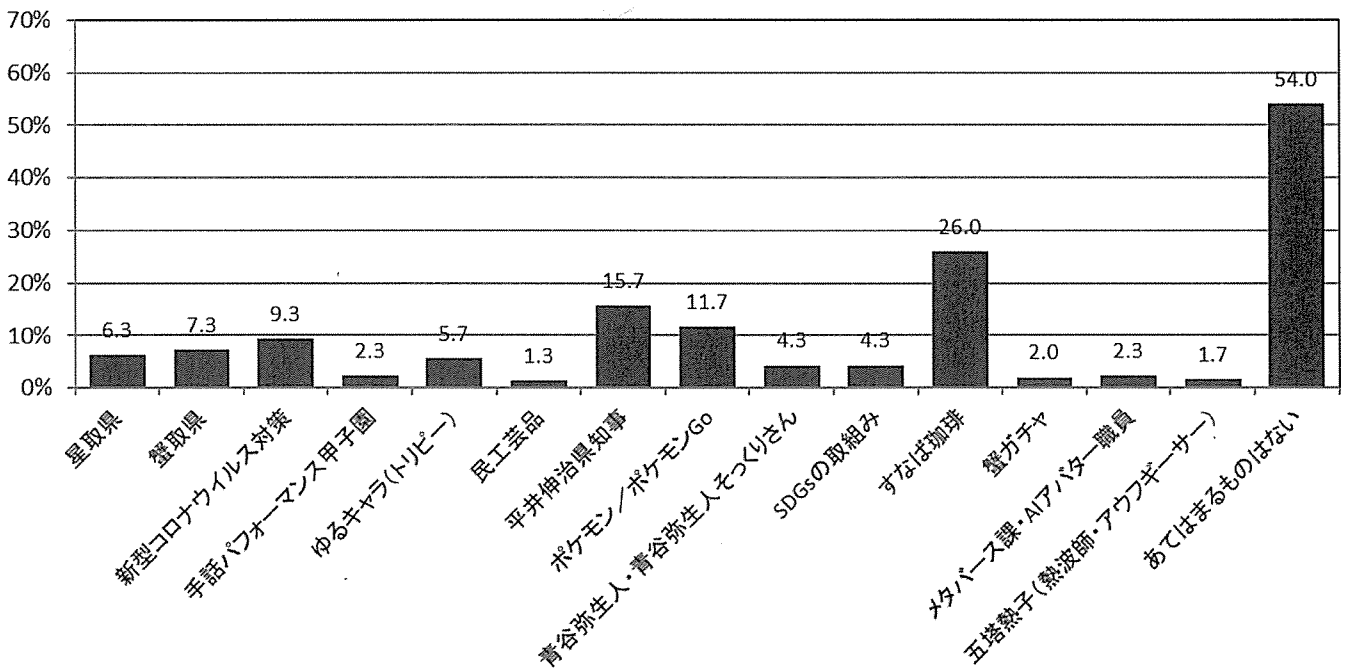


【Q1】 見聞きしたことのある鳥取県に関する話題を全てお選びください。(複数選択可)

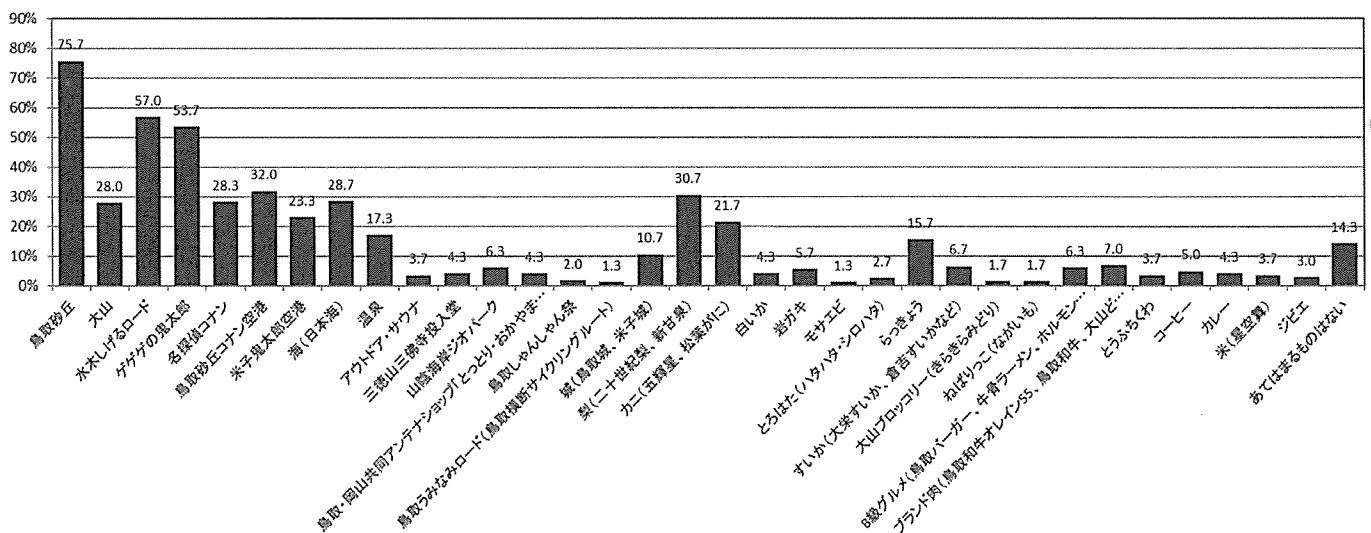
(N=300)



- 昨年同様、「すなば珈琲」が最も高い結果となった。
- 発信に注力している「星取県」(昨年5.3%)、「蟹取県」(昨年4.7%)はいずれも微増している。
- 「青谷弥生人」関連(昨年3.0%)は、露出量を鑑みると伸びが小さく感じるが、イベント以降の報道連鎖は主に、本調査対象の東京在住者が見られない大阪/関西圏(グランプリ受賞者が大阪在住)の番組・媒体が多かったことが影響しているのではないかと考えられる。

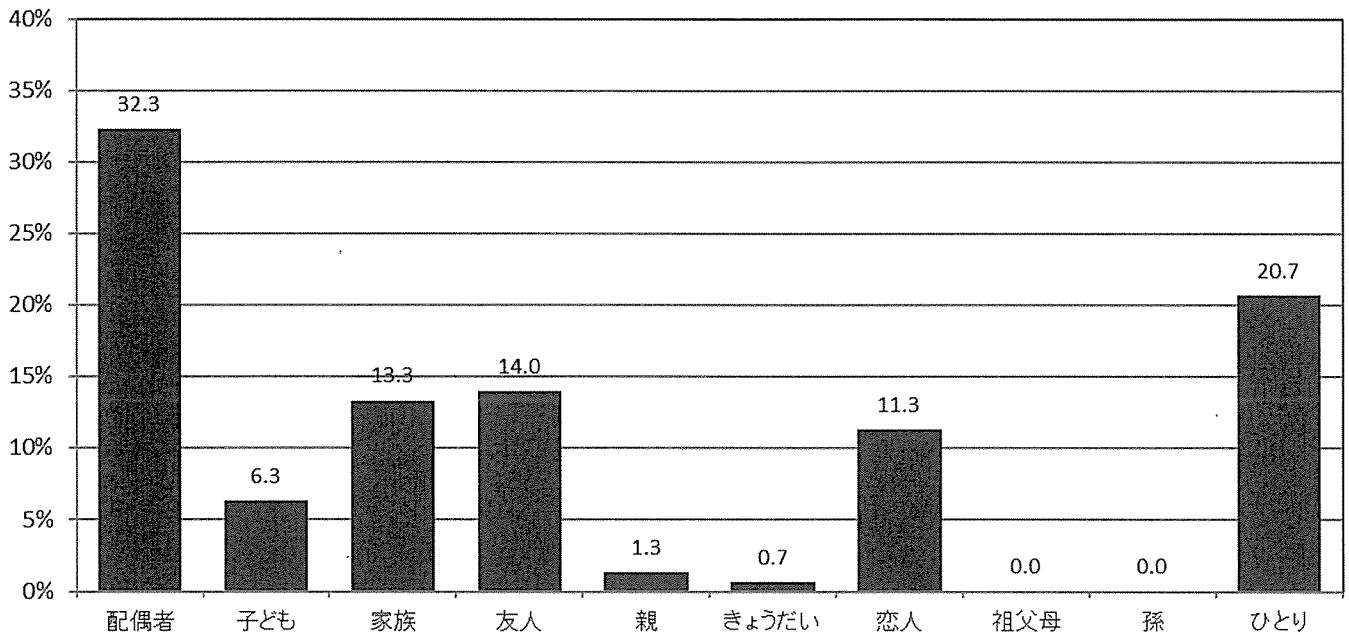
【Q2】 見聞きしたことのある鳥取県に関する話題(観光地、食、特産物等)を全てお選びください。(複数選択可)

(N=300)



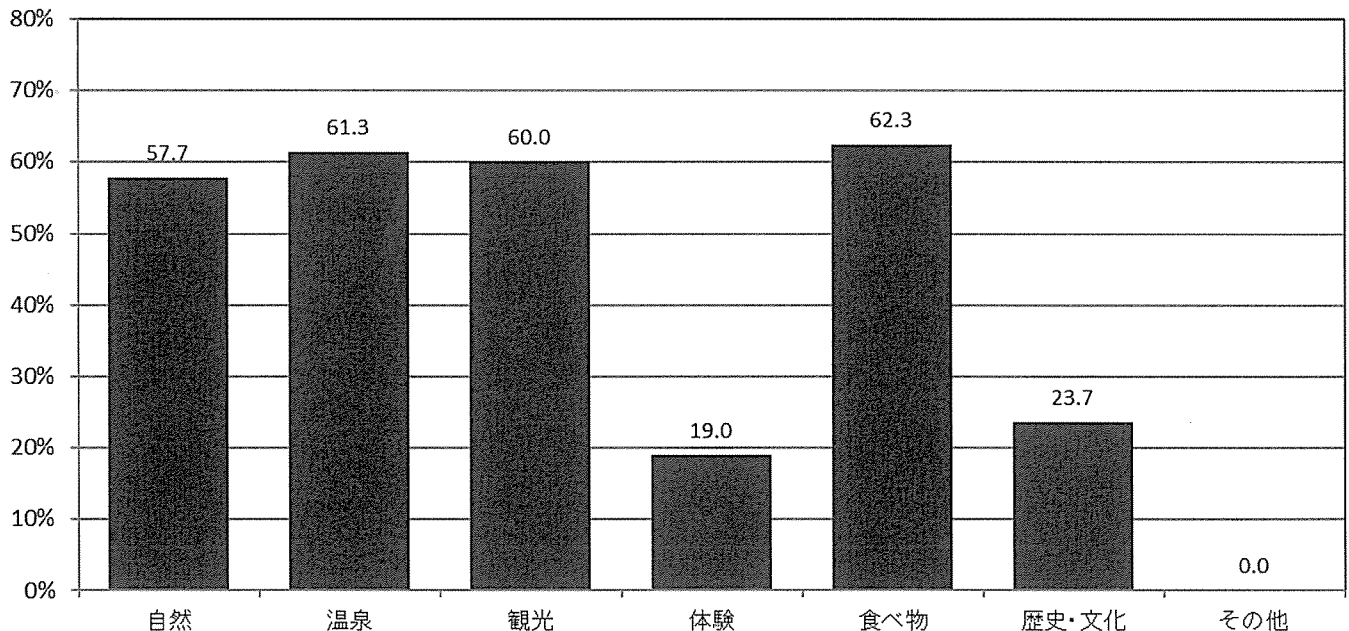
- 最も高い回答率は例年同様「鳥取砂丘」となった。
- 「ゲゲゲの鬼太郎」「名探偵コナン」関連も例年同様回答が多い。アニメ人気や、年代の幅広さも特徴的なため、高い認知へつながっていると考えられる。
- 「米(星空舞)」(昨年0.3%)「かニ(五輝星、松葉がに)」(昨年17.3%)は、それぞれ微増した。
- 一方でアンテナショップのフェアがテレビやWEB等で露出された「らっきょう」(昨年18.3%)は微減となった。

【Q3】あなたが鳥取県にプライベートで旅行に行くなら誰と行きたいですか。最もあてはまるものを1つお選びください。(1つ選択)
(N=300)



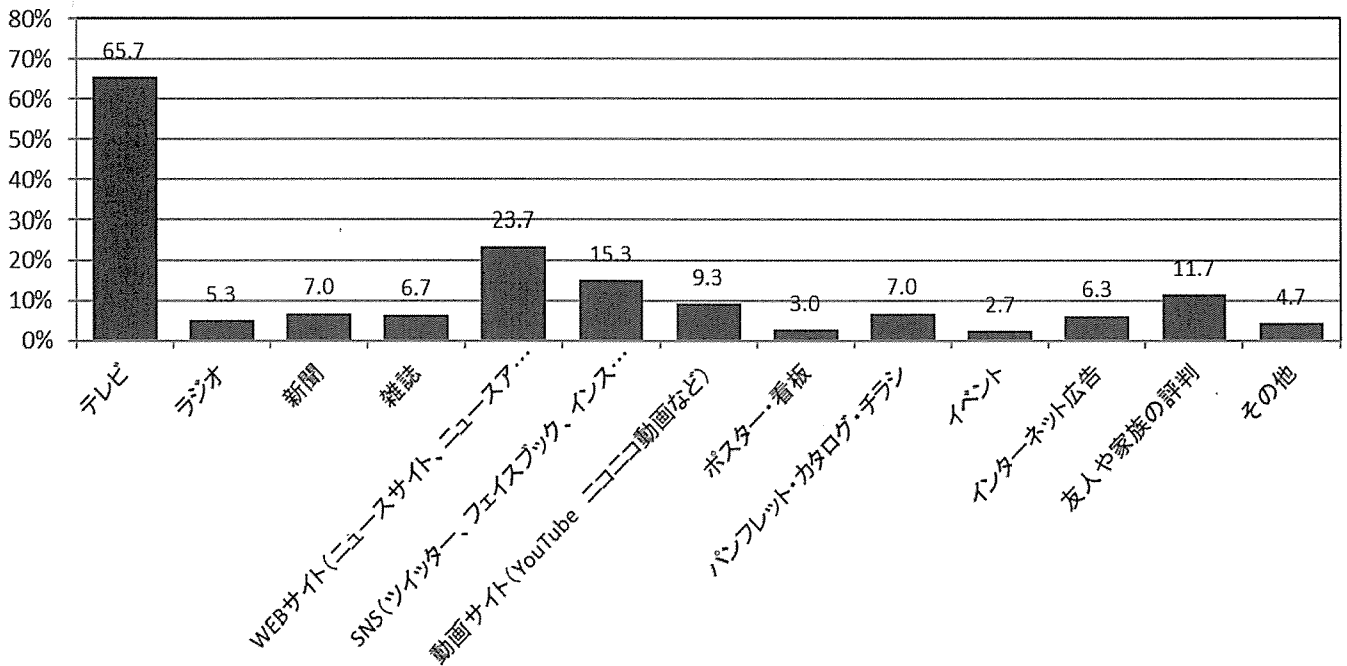
- それぞれの回答率に多少の増減はあるものの、「配偶者」「ひとり」「友人」「家族」「恋人」の順に変動はなかった。
- 「子ども」(昨年3.7%)の回答が伸びていることを見ると、数年続いているコロナ禍の状況から、家族旅行を検討できるまでに状況や心情も変化していることが反映されているのではないかと推察される。

【Q4】鳥取県に行くとしたら何を期待したいですか？あてはまるものを全てお選びください。
(複数選択可)
(N=300)



- 最も多い回答「食べ物」(昨年63.7%)のみが微減しているが、その他の項目はそれぞれ回答率が伸びている。
- 昨年5ポイントの差があった「温泉」(昨年60.0%)と「観光」(昨年52.0%)について、観光が追い上げてきており、観光地としての認知が高まってきたことや、旅行することへのハードルが下がってきており、温泉≒とどまる旅よりも、観光≒各地を巡りたい、と旅へのモチベーションの変化が現れているのではないかと推察される。

【Q5】あなたは直近で何を通じて鳥取県のことを見聞きましたか。あてはまるものを全てお選びください。(複数選択可)
(N=300)



- 「テレビ」が圧倒的に高く、次いで「WEB」「SNS」という回答率については例年同様となっており、数値も大きく変化はない。
- 「動画サイト」(昨年5.3%)「インターネット広告」(昨年5.7%)については、微増していると言える。
- 注目の点は、「パンフレット・カタログ・チラシ」(昨年3.3%)が伸びている。外出なども増えており紙媒体との接触機会も増えていることが要因ではないかと推察する。